

卓越大学院プログラム現地視察報告書(令和5年度)

卓越大学院プログラム委員会

| | | | |
|---|---------------------|---------------|---------|
| 機 関 名 | 東京大学 | 整 理 番 号 | 1 9 0 4 |
| プログラム名 称 | 変革を駆動する先端物理・数学プログラム | | |
| プログラム責任者 | 大越 慎一 | プログラムコーディネーター | 村山 齊 |
| <p>1. 進捗状況概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 中間評価結果等を踏まえ、臨床心理士・公認心理師が常駐する理学系研究科学生支援室との連携、副指導教員（メンター）との定期的な面談、特に必要な場合にはコーディネーターとの面談など、ケア状況を把握する体制を大幅に整備した。このことにより、辞退者が生じた場合でも、その理由は就職、留学など前向きなものとなっている。 ・ FoPM 国際シンポジウム（対面形式）、国際キャリア研修、4 pm セミナー、国外連携機関長期研修、Academic Writing and Presentation（必修となっているコースワーク）など英語力と国際性を身に付ける講義、研修、イベントが効果的に機能しており、学生からも極めて高く評価されている。 ・ 日本学術振興会の特別研究員への申請の必須化、国費留学生のプログラムへの採用、関連専攻による JSR やダイキン工業株式会社と連携したフェローシップの設置（令和4年度末時点でプログラム生10名が本フェローシップに採択）、学内研究拠点における人材育成事業との連携（令和4年度末時点でプログラム生2名を拠点独自の卓越RAに採択）、変革を駆動する先端物理・数学プログラム（FoPM）支援基金の設置など財源の多様化が進められ、本事業に対する学内資源、外部資金による負担率は、令和4年度は52%となり目標を達成している。 ・ オンライン説明会の開催、博士前期課程合格者へのチラシ（日英）の配布、国内外の大学及び学内施設へのパンフレットの配布、教員による海外有力大学への本プログラムの周知などにより本プログラムの周知を図ってきており、外国籍のコース在籍者の割合が増え、女子学生が多い化学からの応募が増えるなど、物理、数学に留まらず、国内外の多様な学生が本プログラムに採用されるようになってきている。 ・ これまでの応募実績をもとに、倍率目標を1.5倍から2倍に引き上げており、本プログラムが優秀な学生を獲得できていると判断できる。 ・ 研究室ローテーションを令和3年度から本格的に開始し、令和4年度にはプログラム生30名が参加した。融合分野での共同研究に向けた動きが出ている。 <p style="text-align: center;">【大学院教育全体の改革への取組状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 全研究科の教育担当副研究科長等で構成される大学院教育検討会議を母体に、文部科学省卓越大学院に採択されたプログラム及び東京大学独自の国際卓越大学院プログラム（合計20プログラム）の連携体制が整備されている。 ・ 本プログラムの一部の活動が、理系文系を問わず各分野において様々な社会問題の解決策に取り組んでいる全学の博士後期課程の学生600名が参加している「グリー | | | |

ントランスフォーメーション(GX)を先導する高度人材育成」(SPRING GX)プロジェクトの制度設計の際にカリキュラムとして組み入れられている。

- ・ダイバーシティ・倫理教育、4pmセミナー、Scientific Writing, Publication, and Communication(選択必修科目)が、他部局や他プログラムにおいて導入が検討されている。

2. 意見(改善を要する点、実施した助言等)

- ・卓越大学院プログラム全体に共通することであるが、大幅な円安の進行により、国外連携機関長期研修における学生の金銭的負担が増加しており、資金援助の増額等の検討をお願いしたい。